

第1回 海浜プロムナード（人道橋）基本設計検討委員会 議事録

日時：平成19年11月9日（金） 10:00～12:15

場所：市役所15階 第4会議室

出席者 <委員>

- ・ 委員長 日野 伸一 (九州大学工学研究院教授)
- ・ 佐藤 優 (九州大学大学院芸術工学研究院教授)
- ・ 柳 哲雄 (九州大学応用力学研究所教授)
- ・ 坂井 猛 (九州大学新キャンパス計画推進室教授)
- ・ 大谷 鮎子 (NPO九州キラキラみなとネットワーク理事長)
- ・ 青木 武 (東区自治組織等連絡協議会会長)

<行政メンバー>

- ・ 古賀 一光 (東区総務部長)
- ・ 阪下 進 (港湾局計画部長)
- ・ 逸見 廣治 (港湾局建設部長)
- ・ 馬場崎 正博 (港湾局環境対策部長)
- ・ 松崎 勝美 (港湾局アイランドシティ経営計画部長)

<事務局>

福岡市港湾局アイランドシティ経営計画部事業計画課

【議事概要】

◎委員長 ○委員 △事務局

(1)前提条件及び設計方針の検討の確認

- 『プライバシーへの配慮』とは具体的にはどういことですか？
- △ 橋の取付部（両岸）において、付近の住居者へのプライバシーを考えて、現地盤からあまり高くないようにしたいということです。
- ◎ 基本方針については了承ということで、この方針に沿って検討を進めます。

(2)基本方針に基づいた本構造の検討

- ・ 平面線形（ルート）の修正
 - ◎ 橋を渡る人の視点変化は、昨年度の検討からずれませんか？
 - 大きくは変わっていないようなので、許容範囲だと思います。
 - ◎ 反対意見はないようですので、平面線形を事務局案のとおり修正することについては、了承いたします。
- ・ 橋梁の全体形状、橋脚の形式、橋桁の形式
 - 潮流への影響をできるだけ抑えるために、橋脚間隔をもう少し広くすることができませんか？
 - △ 仮設道路や仮棧橋を設置せずに、岩礁帯を保護する工法では、橋脚間隔は約13mが限界となります。

○ 縦断勾配は、香住ヶ丘側は緩いですが、アイランドシティ側【3%】が少し急なようですが、バリアフリーの観点ではどうですか？

△ 【3%】を越える場合は水平区間を設ける必要があります。

◎ 基準の上では【3%】勾配は問題ないようですが、100m の距離が続くことについては利用者には辛いかもしれません。一部の勾配が若干急になったとしても、水平区間を設ける方が良いかもしれないので、この点はきちんと考えておく必要があると思います。

○ 香住ヶ丘側の橋の高さですが、あまり近づけすぎない方が良いでしょう。

◎ 耐久性を考えると、橋本体に海水がかかるのは望ましくありません。

○ 橋の高さを上げる方が現実的だと思います。それによって勾配が急になるのであれば、小規模な休憩スペースを増やして、水平区間として利用すると良いでしょう。

○ アイランドシティ側の架設高ですが、花火大会の打上台船が通航できるクリアランスは確保して欲しい。

△ 現在使用している台船は、提案しているクリアランスでは、潮位を見れば、通航可能と考えています。

○ アメリカの橋の崩落事故を受けて、全国で補修のための予算が計上されていると聞いています。この人道橋については、なにか問題があった際に、全体を補修するのではなく、部分補修ができる構造にするなど、何かしらの考慮が必要だと思います。

◎ その通りです。ライフサイクルコストは常に考えておかなければいけないし、きれいな橋でも補修がしづらいものであれば、それは問題だと思います。

◎ 橋桁ですが、薄い構造とするのが景観的にいいと思います。

○ 桁裏がフラットなものだと、シミなどの汚れが目立ち、あまり良くないと思います。

◎ 桁裏の汚れの付きやすさは、どれもあまり違いはないでしょう。

○ 橋桁と橋脚との取り合いや、橋脚自体の形状なども含めて、具体的な形状を見ながら、全体デザインから一体的に検討していく必要があると思います。

○ 形式的には、どれを選んだとしても、端部処理をしっかりやれば良いものはできると思います。

◎ 全体形状・橋脚の形式について皆さんの意見をまとめます。

・橋脚は、【鋼管パイルベント】とする。

・縦断勾配は、長い距離を【3%】とするのではなく、水平区間と組み合わせることで再検討する。

・橋の高さ（香住ヶ丘側）は、海水面に近付けすぎないように、若干上げることで再検討する。

・橋桁は、技術的・経済的な面と景観面を考慮し、事務局と委員長で、詳細について検討する。

・休憩スペースの位置・規模・構造形式

○ 海域部と岩礁帯部の境あたりに、休憩スペースを増設すべきだと思います。また、事務局案は大きすぎるのではないのでしょうか？

○ 適度な規模で、段差などを設けて変化を持たせることで、より効果的な表現ができます。また、木調イメージを実現するなら、この休憩スペースだと思います。

- 低い位置にも休憩スペースが必要だと思います。また、安全性・防犯面の観点から、視認性を確保しておくことは、大切なことだと思います。
- 小規模で良いので、休憩スペースは設けた方が望ましいと思います。
- ◎ 皆さんの意見をまとめますと、事務局案のような大規模な休憩スペースは不要で、小規模なものを複数設置するのが良いようです。
- △ 委員の皆さまの意見を踏まえ再検討し、次回委員会で提示したいと思います。

・その他

- 木調のような『柔らかさ』をどこで表現するか、事前に検討しておく必要があると思います。例えば、休憩スペースの高欄などに使えるのかどうかの検証や、台風対策も考えておかなければ行けないと思います。
- 昨年度の検討会のまとめとして『木調』となっていますが、検討会では木にこだわっているのではなく、例えば石材など、自然系の素材で『人に優しいもの』にしたいとの意見でした。
- ◎ アイランドシティ外周緑地には、木や石など、人に優しい自然系の素材が用いられていますが、橋の場合には、安全性などについて充分に考える必要があるので、事務局は、その点も考慮し検討して下さい。